

出張報告届

令和7年 8月 18日

吹田市議会議長様

会派名 自民党吹田・無所属の会

代表者氏名 白石 透

出張者氏名 白石 透

.....  
.....  
.....  
.....  
.....

下記のとおり出張したので届け出ます。



記

出張先	全水道会館（東京都文京区）
期間	令和7年 8月 4日から 8月 5日まで 2日間
出張の成果	別紙のとおり
備考	2025年 第25期 自治政策講座in東京2 若返るまちづくりへ —地方創生アプローチ

第 25 期自治政策講座 in 東京 2 報告書

若返るまちづくりへ ー地方創生アプローチ

日程；2025 年 8 月 4 日（月）・5 日（火）

場所；全水道会館

講師：田村 恵子 新潟大学危機管理センター教授

古田 尚也 大正大学地域構想研究所 教授

家田 仁 政策研究大学院大学 特別教授

渡邊 さやか 長野県立大学准教授

先週の委員会視察とも重なる「インフラが危機」の講座であった。

本年の埼玉県八潮下水道起因の道路陥没事故、自動車メーカー各社の車両検査データ改ざん事件、能登半島地震の際のインフラ機能、和歌山市水管橋落橋事故、笹子トンネル天井板落下事故などインフラへの信頼を揺るがす種々の災害・事故・事件などが相次いでいる。

八潮下水道事故に俯瞰しては「見るべきものを見ていなかった」

と私見を述べられていた。結果として、点検（調査）が形骸化？して

いたのではないか？との見解であった。

この意味は決して手抜きをしていたなどではなく、つい先日も発生したが厳しい作業環境のもとで、地下であるがゆえに有毒なガスが発生していたなど上下水道の地下空間の「不可知性」などマネジメント体制の強化、などあらゆる方面から束になって取り組む必要性を唱えられていた。

また専門的な職員（技術職）不足に対応しうる AI などの補完の必要性も言われており、あらゆる角度からのネットワーク構築の必要性を言われていた。

下水道等に起因する大規模な道路陥没事故を踏まえた対策検討委員会の第2次提言に触れられ、提言の基本的な考え方として

- ・下水道管路は極めて過酷な状況に置かれたインフラである。
- ・作業安全の確保意識の徹底は下水道マネジメントにおける最重要の前提条件である。
- ・下水道管路における安全性確保が何よりも優先されるという基本スタンスを再確認しなくてはならない。
- ・下水道管理者における技術職員の人材養成と組織を越えた「人の群マネ」を推進すべきである。などの提言を講義された。

群マネとは広域・複数・多分野のインフラを「群」として捉えマネジメントする「地域インフラ群再生戦略マネジメント」（群マネ）を進める上で、技術職員も「群」となって広域的に連携し、インフラのメンテナンスに関わるという考え方を強調された。

私見になるが、私の住んでいる千里ニュータウンは、まちびらきと同時に施設が出来ており、施設には集合住宅を含め、学校、上下水道、道路、公民館・市民ホール等多岐にわたり、その一方では住宅の建替えによる余剰地の売却での子育て世代の急増と併せて高齢化がすすんでいくなど、住民税の増収をはるかに上回る税投入も考えられていると感じており、吹田市トータルでの市民満足度の向上と、併せて市税投入も10年先、30年先、50年先位までもを考慮していくべきと改めていく必要を感じた。